

目地バリル型シート施工マニュアル

※ウレタッチを使用する、新工法についてのマニュアルです。

施工前



施工前の状態

路面の状態、目地部分の隙間、発生雑草の種類によって、適切な前処理を選択する。
(前処理の選択は裏面参照)

前処理



抜根除草・目地堆積物の処理

根力キなどを用いて、雑草の根や目地部に堆積した土埃を除去する。



路盤清掃

刈り取った雑草や土埃をほうき等で除去する。
また、ワイヤーブラシ、タワシなどを用いて、路盤にこびりついた土埃の除去を行う。

④ 路面の処理

目地修正

目地が10mm以上開いている又はチャ系の雑草が発生している場合は根かきして目地バリセメントを目地に埋める。
また、路面に凹凸や窪みがある場合は、目地バリセメント等を用いて、施工面が平らになるように処理を行う。
広い部分に使用した際は、充分な養生が必要。



貼り付け位置だし①

貼り付け位置をスケールで測定し、数箇所にチョークでマーキングする。



貼り付け位置だし②

数箇所にマーキングした部分に合わせ、ラインチョーク等で貼り付け位置にラインを入れる。

プライマー塗布



プライマー塗布

施工面の砂埃を払い、刷毛などを用いてL型専用プライマーを均一に塗布する。
(使用目安 40ml/m)
残ったプライマーは密封し、容器の記載に従い保管する。

プライマーの養生(重要)

(塗布後の養生目安)
夏期: 10分～ 冬期: 20分～

施工時の気温や、路面状態(窪みにプライマーが溜まる)によって、養生時間は異なる。目地バリル型シートを貼り付ける前に、指で触り、乾燥を確認することが望ましい。(裏面参照)
養生が足りないと、プライマーに含まれる溶剤により、目地バリル型シートに悪影響が出る恐れがあるので、注意する。

目地バリル型シート貼付



貼付準備

プライマーが乾いたのを確認後、目地バリル型シートを拡げる。



接着剤塗布

目地バリル型シートの裏面(凹凸のある面)に、ウレタッチを搾り出し、ヘラ等で全体に薄く広げる。(裏面参照)

使用目安
(L) 65ml/m
(S) 50ml/m



貼付

シート全体が一度にひっくり返らないように一方を保持しながら、もう一方から路面に貼り付ける。
シートとシートのつなぎ目は、端部同士でつぎ合わせ、エルタッチ(端部処理材)を塗布する。



シート圧着

目地バリル型シートを貼り付けたら、目地部分が浮かないように圧着を行う。また、シートの両端が浮き上がらないよう、注意する。



圧着(巻き中心部)

シートの巻き中心部は巻き径が小さい分、巻き癖が強いため、貼り付けの際にしっかりと圧着する。
巻き癖が強く、接着し難い場合は、コンクリートピンなどで固定する

点検



点検

貼り付け作業からおよそ30～60程度後に、接着剤の粘着力が強くなっているかを確認し、再度目地部分を中心に圧着をする。
(接着力確認に関しては裏面参照)

上端・下端の処理



端部処理

シートが固定されているのを確認し、シートの両端にエルタッチ(端部処理材)を塗布する。

(使用目安 18ml/m)

完了



目地バリL型シート施工上の注意点

株式会社白崎コーポレーション
グリーンナップ事業部

前処理の選択

現場条件に応じて、必要な処理を選択する。
()内の番号はマニュアルの番号に対応。

- 目地部分から雑草が発生している
⇒除草、抜根除草(②)が必要
⇒発生している雑草が、チガヤ、ヨモギ、スギナ、ヨシなどの地下茎を持つ多年生の雑草の場合(※)
⇒目地バリセメント充填(④)
- 目地部分に土が堆積している
⇒目地堆積物の処理(③)が必要
- 新設の現場以外、または路面に土埃が付着している
⇒路盤清掃(③)
- 路面に凹凸や窪みがある
⇒路面のセメント処理(④)

※イタドリ、オオイタドリが生育している場合は、事前の除草剤処理が必要

接着剤の塗布方法

接着剤の塗布方法として、接着剤は全体に薄く引き延ばすことで目安の養生時間で効果が出る。
シートへ適量を塗布する方法として、接着剤をトレイなどに出して塗布する場合は、以下のような方法にて作業を行う。



ウレタッチの抽出口の反対(底面)をはさみなどでカットする。



トレイ(接着剤がつきにくい素材:PP製が好ましい)などを用いて接着剤を適量だす。



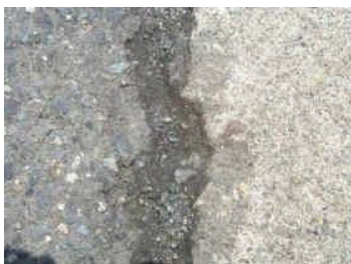
ヘラなどを用いてトレイから適量をシートに薄く広げようようにして塗布する。

プライマーの養生

L型専用プライマーの塗布について

プライマーはそれ自体が接着力を持つのではなく、施工面を目地バリL型シートが附着しやすくするための資材である。そのため、厚く塗りすぎても効果はなく、全体に均一に塗布することが重要。

塗布後は溶剤の揮発のため、目安として、夏期は10分～、気温の低い冬期は20分～の養生が必要となる。



施工面の窪み

プライマーを大量に塗布すると、この部分にプライマーが溜まり、養生不良になりやすい。窪みのある場合は事前にセメント等を充填するなどの処理が必要。



乾燥確認

目地バリL型シート貼付前に、溶剤が完全に揮発したか、確認を行う。
目安の養生時間を過ぎても、塗布量や気温によっては乾燥しきっていない場合もあるので注意。

ウレタッチの接着力の目安



最初に貼付を行ってから30～60分後に再圧着を行う。
その際に、接着剤の粘着力が強くなっているかを一部シートを引っ張り、確認する。
接着剤が全体的に糸を引くような状態になっていると、再圧着した際にシートがしっかりと固定される。